

2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年5月6日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成島 啓
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 伊藤 賢 (TEL) 03-6820-9590
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績(2022年1月1日~2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	1,827	2.7	456	8.4	463	9.8	286	△47.3
2021年12月期第1四半期	1,779	23.3	421	193.8	421	202.2	544	628.5

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 288百万円(△47.7%) 2021年12月期第1四半期 552百万円(538.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	8.38	8.25
2021年12月期第1四半期	16.67	16.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	8,476	6,775	79.5
2021年12月期	8,344	6,576	78.5

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 6,738百万円 2021年12月期 6,552百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	3.00	3.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期(予想)	—	0.00	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

・当社は、2021年7月1日付で普通株式1株につき4株の割合をもって株式分割をしております。2021年12月期については、当該株式分割後の配当金の金額を記載しております。

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日~2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	3,619	3.2	739	△5.5	716	△11.0	323	△62.6	9.37
通期	7,727	12.1	1,942	40.9	1,894	33.4	1,352	10.6	39.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期 1 Q	34,456,480株	2021年12月期	34,456,080株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	235,148株	2021年12月期	235,128株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期 1 Q	34,221,182株	2021年12月期 1 Q	32,624,224株

(注) 当社は、2021年7月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 中期経営計画の進捗に関する説明	3
(3) 財政状態に関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2022年4月11日開催の取締役会において、株式会社ワコムと業務資本提携を締結しました。今回の提携を通じ、これまでのパートナーシップの関係をより深め、クリエイターの皆様に新しい価値や体験を提供してまいります。詳細につきましては2022年4月11日開示資料「資本業務提携契約の締結及び第三者割当による新株式発行に関するお知らせ」及び2022年4月11日公開のニュース「アートスパークホールディングスとワコム、資本業務提携 クリエイティブ・コミュニティの発展を支える 価値あるソリューションを提供」をご参照ください。

当社グループは、デジタルによるコンテンツの創作から利用・活用に至るまでの諸活動をトータルに支援できる環境の提供を経営理念に掲げ、事業を推進しております。

当連結会計年度におきましても、ソフトウェアIPを核とした経営に重点を置き、戦略的な開発投資を継続して行い、企業価値の向上に注力しております。

その結果、当社グループの当連結会計年度の売上高は1,827,574千円（前年同期比2.7%増）、営業利益は456,724千円（前年同期8.4%増）となりました。

また、経常利益につきましては、為替差益7,132千円を計上したこと等により、463,106千円の経常利益（前年同期比9.8%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、事務所移転に伴う固定資産除却損及び賃貸借契約解約損を60,215千円計上したこと、法人税等116,105千円を計上したことにより、286,785千円の親会社株主に帰属する当期純利益（前年同期比47.3%減）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<クリエイターサポート事業>

前期に引き続き、子会社のセルシスがイラスト・マンガ・アニメーション制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」の機能向上を目的とした開発投資を行いながら、海外利用ユーザー及びサブスクリプション契約の増加を目的とした、全世界に向けたプロモーション活動を実施しております。

「CLIP STUDIO PAINT」は、2022年3月末現在の累計出荷本数は1,886万本（前年同月比56.5%増）、そのうち70%以上が日本語以外の海外に向けた出荷となっております。また、同月のサブスクリプション契約数は55.3万契約（前年同月比79.0%増）となり、ARR（当社がサブスクリプションから年間ベースで得られると期待できる金額）は1,966,000千円（前年同月比58.3%増）となりました。

セルシスが注力しているサブスクリプションモデルでのライセンス提供は、廉価な価格で利用開始の敷居を下げる反面、一括でまとまった金額のライセンス料を徴収する買い切りモデルに比べ、短期的には収益効果が低くなります。しかしながら、「CLIP STUDIO PAINT」への開発投資を続け、継続して利用頂くことで中長期においては安定した収益が期待できるため、引き続きサブスクリプションモデルでのライセンス提供に注力してまいります。

当第1四半期連結累計期間においては、イラスト・マンガ・アニメーション制作アプリ「CLIP STUDIO PAINT」が、サムスンのペン付きAndroidタブレット「Galaxy Tab S8シリーズ」にプリインストール、サムスンのSペン付属NotePC「Galaxy Book2 Pro 360」にはバンドルされて提供開始されています。プリインストールおよびバンドルされた「CLIP STUDIO PAINT」は、無料利用期間後にサブスクリプション契約を行うことで継続利用できる形となっており、サブスクリプション契約の増加が期待されます。いずれのコラボレーションもグローバルでのバンドルになっており、海外ユーザーの増加も期待できます。

また、2月には、在宅勤務・在宅学習に対応した、企業・教育機関向け「CLIP STUDIO PAINTボリュームライセンス」を、リニューアルして全世界で提供開始しました。引き続きグローバル展開を意識した施策を行ってまいります。

なお、前期期末に業務資本提携を締結したWEBTOON Entertainment Inc. とは、同社がグローバルに展開する「WEBTOON's Call to Action」コンテストに協賛し、クリエイターの発掘・育成を「CLIP STUDIO PAINT」で支援を行っております。

以上の結果、売上高は1,557,101千円（前年同期比5.4%増）、営業利益は566,470千円（前年同期比9.3%増）となりました。

<UIUX事業>

UI/UX事業では、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、車載向けソフトウェア開発プラットフォーム「CGI Studio」、及び、HMIの基盤であるUIオーサリングソフトウェア群「UI Conductor」を中心とする自社IP製品の開発に注力しております。

当事業の主要な顧客である自動車関連分野は、前期に引き続き、新車開発の遅れによるモデルチェンジサイクルの

長期化や、半導体不足等による生産台数の減少等を受け、厳しい事業環境が続きましたが、子会社のカンデラは、2022年後半以降の市場回復・拡大を睨み、研究開発投資と、パートナーとの提携を積極的に行っております。

当第1四半期連結累計期間では、本事業年度に提供開始を予定している、液晶デバイスの普及により、自動車関連に限らず今後市場拡大が見込まれる産業・民生機器等の幅広い分野で利用可能になることを目指した、次世代のHMIソリューションの先行研究開発投資を行いました。

また、2022年1月に東京ビッグサイトで開催された、世界最大規模のクルマの先端技術の展示会「第14回 オートモティブ ワールド」に出展し、「CGI Studio」を用いた、パートナー企業のルネサスエレクトロニクス社のEV（電気自動車）用デジタルメータークラスターや、シーメンス EDA 社の高解像度車載メータークラスターをはじめとした、自動車用の HMI デザインと組み込みソフトウェア分野における最新技術を展示し、市場回復を見据えながらパートナーとの提携を深める活動を行いました。

売上高は270,473千円（前年同期比9.9%減）、営業損失は111,396千円（前年同期は123,507千円の営業損失）となりました。なお、2021年第1四半期末における連結損益計算書では、連結子孫会社であった株式会社エイチアイの2021年2月末日までの数値を含んでおります。

（2）中期経営計画の進捗に関する説明

2020年11月6日に発表いたしました中期経営計画で見込んでいた、2022年12月期のグループ売上8,110百万円、営業利益1,880百万円の計画に対し、当第1四半期累計実績は、売上1,827百万円（進捗率22.5%）、営業利益456百万円（進捗率24.3%）となりました。

カンデラが主力とする自動車関連分野の厳しい事業環境は改善していないなか、収支のバランスをコントロールしながらの先行開発投資の実施に加え、クリエイターサポート事業が収益に寄与し、中期経営計画は順調に進捗しております。

（3）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて132,309千円増加し8,476,980千円となりました。この主な要因は、法人税等の支払いにより現金及び預金が261,659千円、技術資産が25,577千円減少したものの未収入金が169,145千円、前払費用が130,375千円、ソフトウェアが84,030千円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて66,622千円減少し1,701,861千円となりました。この主な要因は、未払金が27,704千円、賞与引当金が50,094千円増加した一方で未払費用が29,665千円、前受金が27,541千円、未払法人税等が65,900千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べて198,932千円増加し6,775,118千円となりました。主な要因は、利益剰余金が184,122千円増加したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、79.5%となりました。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の連結業績予想につきましては、2022年2月10日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,725,389	5,463,729
売掛金	363,293	387,392
製品	9,412	9,240
仕掛品	16,314	16,396
原材料及び貯蔵品	29,106	63,922
未収入金	299,058	468,203
その他	131,057	243,182
貸倒引当金	△130	△153
流動資産合計	6,573,502	6,651,913
固定資産		
有形固定資産		
建物	170,309	178,939
減価償却累計額	△49,924	△50,132
建物(純額)	120,385	128,806
工具、器具及び備品	308,640	303,340
減価償却累計額	△218,891	△215,034
工具、器具及び備品(純額)	89,748	88,305
有形固定資産合計	210,133	217,112
無形固定資産		
ソフトウェア	906,734	990,765
ソフトウェア仮勘定	3,488	511
顧客関連資産	62,122	55,219
技術資産	230,200	204,622
その他	76,248	77,262
無形固定資産合計	1,278,793	1,328,380
投資その他の資産		
投資有価証券	28,119	28,078
敷金及び保証金	166,504	154,684
繰延税金資産	76,134	85,291
その他	19,105	19,182
貸倒引当金	△7,624	△7,662
投資その他の資産合計	282,240	279,573
固定資産合計	1,771,167	1,825,066
資産合計	8,344,670	8,476,980

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	120,109	98,691
未払金	108,576	136,280
前受金	560,107	532,565
未払費用	159,769	130,104
未払法人税等	218,140	152,240
返品調整引当金	1,614	—
賞与引当金	64,378	114,473
その他	171,539	156,075
流動負債合計	1,404,236	1,320,431
固定負債		
役員退職慰労引当金	140,980	148,430
退職給付に係る負債	221,697	231,754
その他	1,569	1,245
固定負債合計	364,247	381,429
負債合計	1,768,484	1,701,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,275,761	2,275,800
資本剰余金	1,754,888	1,754,927
利益剰余金	2,676,615	2,860,738
自己株式	△186,550	△186,564
株主資本合計	6,520,715	6,704,901
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,113	12,064
為替換算調整勘定	19,253	21,290
その他の包括利益累計額合計	31,366	33,355
新株予約権	24,103	36,861
純資産合計	6,576,186	6,775,118
負債純資産合計	8,344,670	8,476,980

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	1,779,001	1,827,574
売上原価	825,679	775,177
売上総利益	953,322	1,052,397
返品調整引当金戻入額	557	—
返品調整引当金繰入額	1,380	—
差引売上総利益	952,498	1,052,397
販売費及び一般管理費	531,094	595,672
営業利益	421,404	456,724
営業外収益		
受取利息	23	22
受取配当金	6	6
為替差益	1,160	7,132
その他	—	0
営業外収益合計	1,190	7,162
営業外費用		
特許権償却	675	633
その他	173	147
営業外費用合計	849	780
経常利益	421,744	463,106
特別利益		
新株予約権戻入益	72	—
関係会社株式売却益	205,651	—
特別利益合計	205,723	—
特別損失		
固定資産除却損	—	11,267
賃貸借契約解約損	—	48,947
特別損失合計	—	60,215
税金等調整前四半期純利益	627,468	402,890
法人税等	83,409	116,105
四半期純利益	544,058	286,785
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	544,058	286,785

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	544,058	286,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	901	△48
為替換算調整勘定	7,103	2,036
その他の包括利益合計	8,004	1,988
四半期包括利益	552,063	288,773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	552,063	288,773
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,476,827	300,174	1,777,001	2,000	1,779,001
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,476,827	300,174	1,777,001	2,000	1,779,001
セグメント利益又は損失 (△)	518,052	△123,507	394,545	26,858	421,404

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、「UI/UX事業」を構成していた株式会社エイチアイの全株式を譲渡したため、株式会社エイチアイを連結の範囲から除外しております。なお、前連結会計年度末において、当該資産は「UI/UX事業」セグメントに597,765千円計上されております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリエイター サポート事業	UI/UX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,557,101	270,473	1,827,574	—	1,827,574
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,557,101	270,473	1,827,574	—	1,827,574
セグメント利益又は損失 (△)	566,470	△111,396	455,074	1,650	456,724

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。